

障害者もその親も、がんばらなくていい居場所づくり

—『特定非営利活動法人 きらきら輝くまるとすよ!』—

2018年4月1日、名古屋市緑区にオープンした地域活動支援事業所「きらまると」。高校卒業後の障害者の方を対象に、一人ひとりに寄り添うサービスをを行っています。代表・水野さんの息子さんは知的障害を抱えている当事者。今回は、育児の経験を踏まえて考えられた支援方法についてお話をうかがいました。

利用者を中心に置いた支援を

もともとは「社会福祉法人 名古屋手をつなぐ育成会」で活動していた水野さん。障害について学習したり、当事者の親と情報を共有したり、育児の悩みを話し合ったりしていた。その経験から今度は自分が支援する立場にまわろうと決意。同じ思いを持った仲間とともに障害者支援のNPOを設立した。その後、自身が培ったノウハウを最大限に生かすべく、個人で「特定非営利活動法人 きらきら輝くまるとすよ!」を2016年に立ち上げた。目標に掲げるのは「利用者を中心に置いた支援」だ。「これまでに手掛けた様々な事業を通じて、支援者からの一方的なサービスではダメだと感じました」と水野さん。最も大切なのは、一人ひとりの気持ちを第一に考えることだという。障害の内容や度合いによって、支援者の不安や目指すものは違う。例えば、みんなで何か遊ぶときに「自分はこれをやりたい」と思っているにもかかわらず、障害の壁により言葉で伝えられない利用者がある。そのときは全員に「今日はこれをやりましょう」と呼び掛けるのではなく、まずは個人とのコミュニケーションを優先するそうだ。遊ぶ際も学習する際も、あえてスタッフが仕切らずに、できる限り利用者の気持ちに寄り添うところが「きらまると」の特徴だ。

自宅と作業所の中間地点として

“がんばらなくていい”小さな社会をつくる

「きらまると」では現在、体操やウォーキング、買い物の学習、ご飯づくりといった活動を通して、利用者がリフレッシュできる居場所づくりを行っている。事務所が開くのは毎週月曜・火曜と土曜・日曜。平日は作業所帰りにホッと一息つける場所として、休日は余暇を楽しむ場所として親しまれている。利用者は20代～30代前半の方が多く、その障害の種類や等級は幅広い。一人で事業所に足を運べる方もいれば、行き帰りの送迎やトイレの介助、食事のサポートが必要な方もいる。そうした中で水野さんは、「みんなががんばらなくていい”小さな社会を目指している。『きらまると』は作業所でがんばった後に落ち着いてもらうための場所ですが、一方で、自宅のように一人で何でもできる環境ではありません。スタッフも利用者もみんなが協調して、それぞれの違いを受け止めることができる小さな社会をつくっていきたいです」と話す。そしてその小さな社会は、健常者を含む大きな社会で過ごす練習になるという。「指先が不自由でシャツのボタンが留められない方がいます。それ自体はどうしようもできないことですが、“自分でボタンを留められないことを伝える力”は身につけることができます。スタッフや仲間とのコミュニケーシ



NPO法人
きらきら輝くまるとすよ!

「きらまると」のマスコットキャラクター・きらきら丸。その名前には「自信を持ってきらきらと輝く人生を送ろう!」という思いが込められている

ンを通してその力を養えれば、周りの理解を得られてもっと居心地の良い社会になるのではと思っています」。

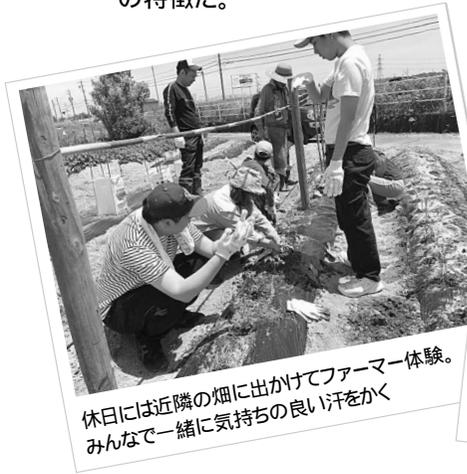
経験者だからこそ分かる、当事者の親に必要なケア

「きらまると」の利用者は成人の方がほとんどだが、見守りや介助が必要なケースは多い。そして、そのサポートの大部分を担うのは利用者の親である。水野さんはそこでの苦労を深く理解しているからこそ、家族への支援も欠かさない。今後は茶話会や勉強会を開く機会を増やし、親同士の交流を深める場をつくっていきそうだ。その理由は、水野さん自身、同じ境遇の人と交流することで救われた経験がたくさんあったから。「健常者のお子さんを持つ親の方と話していると、“どうしてウチの子だけ?”と思ってしまうことがありました。でも、障害者の親が集まる茶話会に顔を出したときはまったく違いました」。そこで交わされる話は参考になるものばかり。水野さんは怒ったり笑ったり泣いたりしながら、「私も一緒だよ」「1年後にはこういうことで悩むかもしれないね」という周りの声を聞き、抱えていた重荷を下ろせた気分になったという。「次にみんなで集まるときまでがんばろう、という元気をもらえました」。時代が進むにつ

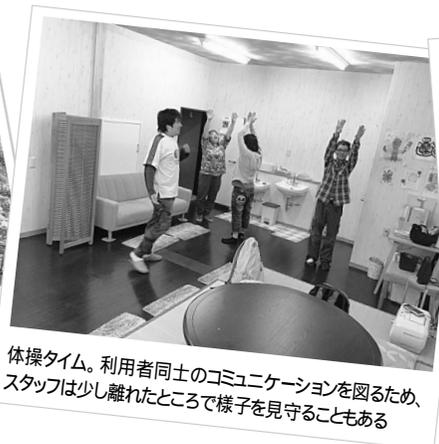
れて障害の理解度や情報量は変わってきているが、当事者の親が抱える悩みは変わらない。「多くを語らなくても理解し合える場を提供していきたいですね」と水野さんは優しい目で話す。

思いやりのある社会を目指して

今後は「きらまると」の活動を充実させながら、「思いやりのある社会になったらいいですね」と願いを話す水野さん。「身近な人間関係はもちろん、関わりのない人たちを思いやれる方が増えると嬉しいです」とのこと。例えば、同じ電車に乗った障害者に健常者が向ける眼差しがそうだという。「この人はどういう人なのかな?」「何がしたいのかな?」「何をしたら嬉しいかな?」と考えられる健常者が増えれば、障害者が暮らしやすい社会がつかられていくはず。ただ現代は、自分と障害者の間に境界線を引いてしまう人が多いのも事実だ。「ネットの情報が氾濫しているからか、障害についてちょっとは知っているけど全部は知らない、という人が多い気がします。下手に関わったら良くないということで、“触らぬ神に祟りなし”というスタンスになってしまうんじゃないかと」。現実には厳しいが、それでも水野さんは前を向いている。「理解のある人や手を差し伸べることができ人を地道に増やしていくことも、この事業の意義だと考えています」。『きらまると』を通して得た知識や経験をスタッフや利用者の方が広めることで、自然と思いやりのある社会が形成されていく。「だから30年くらいは事業をやり続けたいですね」と笑いながら話す水野さんの姿に、背筋が正される思いがあった。



休日には近隣の畑に出かけてファーマー体験。みんなと一緒に気持ちの良い汗をかく



体操タイム。利用者同士のコミュニケーションを図るため、スタッフは少し離れたところで様子を見守ることもある



平日の夜は利用者そろうて食卓を囲むことも

Information

地域活動支援事業所「きらまると」

営業日 月・火14:00～21:00、土・日10:00～17:00

祝日、年末年始を除く。イベントなどで変更になる場合あり。

利用料金 名古屋市が定める一定金額の利用者負担

利用できる方 身体障害者、知的障害者、精神障害者、手帳を持っていない一定範囲の難病患者

所在地 〒458-0003 名古屋市緑区黒沢台4-905

TEL: 052-848-9905 FAX: 052-848-9908

E-mail: npokiramaru@gmail.com

HP: <https://www.kiramaru.or.jp>

ボランティア募集情報

10代～20代の利用者と一緒に遊ぶボランティアを募集中!一緒にウォーキングをしたり、キャッチボールやフラフープ、あやとり、お手玉など内容は様々です。興味のある方はぜひ連絡を。